



「直接体験」の大切さ

校長 大関 正人

6年生が修学旅行で佐渡市へ、5年生が自然教室で胎内市へ行ってきました。

子どもたちは振り返りの作文に、「学校ではできない貴重な体験ができた」「自然をたくさん感じることができた」「みんなと協力することの大切さを知った」「時間を見て行動する力が付いた」といった学びをたくさん書いていました。



さて、体験活動は、大きく3つに分類されます。

- ・「直接体験」…自分自身が対象となる実物に実際に関わる中で学ぶ
- ・「間接体験」…インターネットなどの媒体を介して感覚的に学ぶ
- ・「疑似体験」…模型やシミュレーションなどを通して学ぶ

情報化社会の進展の中で、間接体験や疑似体験が飛躍的に増大し、その精度を増しています。一方で、手間や時間を要する直接体験は減少しているように感じます。

今回の修学旅行や自然教室の体験活動は、様々な感覚（視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚等）を働かせて、あるいは組み合わせていく「直接体験」がほとんどでした。そこから得たものは、決して代替することのできない「本物の学び」といえるのではないのでしょうか。「本物の学び」は子どもたちの心の中にいつまでも残っていくことと思います。

現実の世界や生活と向き合い、自然や社会・周りの人と関わっていくこと、関わりの中で感動したり葛藤したりすること、このような体験が子どもたちを育てていきます。これからも、東っ子が様々な対象と関わり、体験を重ねる中で成長していく活動を大切にしていきたいと考えます。